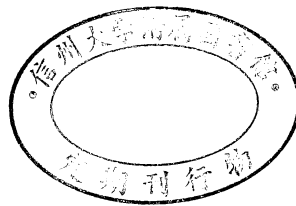


# 坂城町内遺跡発掘調査報告書2010

—平成22年度試掘・立会い調査報告書—



2011.3

坂城町教育委員会

## 例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成22年度の町内遺跡の試掘調査及び立会い調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫の補助金及び町費にて対応した。
- 3 調査の体制  
担当者 助川 朋廣、時信 武史（坂城町教育委員会学芸員）
- 4 事務局の構成  
教 育 長 長谷川 臣  
教育文化課長 塚田 好一  
文化財係長 助川 朋廣  
文 化 財 係 時信 武史  
中沢あつみ、山岸紀美子（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は助川・時信が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

## 凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（ ）内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図に縮尺を示した。
- 3 報告書抄録に記載された北緯・東経の座標値については、平成14年4月1日から施行された測量法改正に伴う、世界測地系に基づいた数値を記載した。

## 目 次

例 言

凡 例

第Ⅰ章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅱ章 試掘調査の結果	6
1 上五明条里水田址21	6
2 田町遺跡群9	8
第Ⅲ章 立会い調査の結果	10

報告書抄録

# 第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境

## 第 1 節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

## 第 2 節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は 3、4 ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が注目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林 1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、

全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡（1-8）が注目される。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊饒堂遺跡（20）、開畝遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡（44）がある。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区の開畝製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林 1999）。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置づけられるものであった。

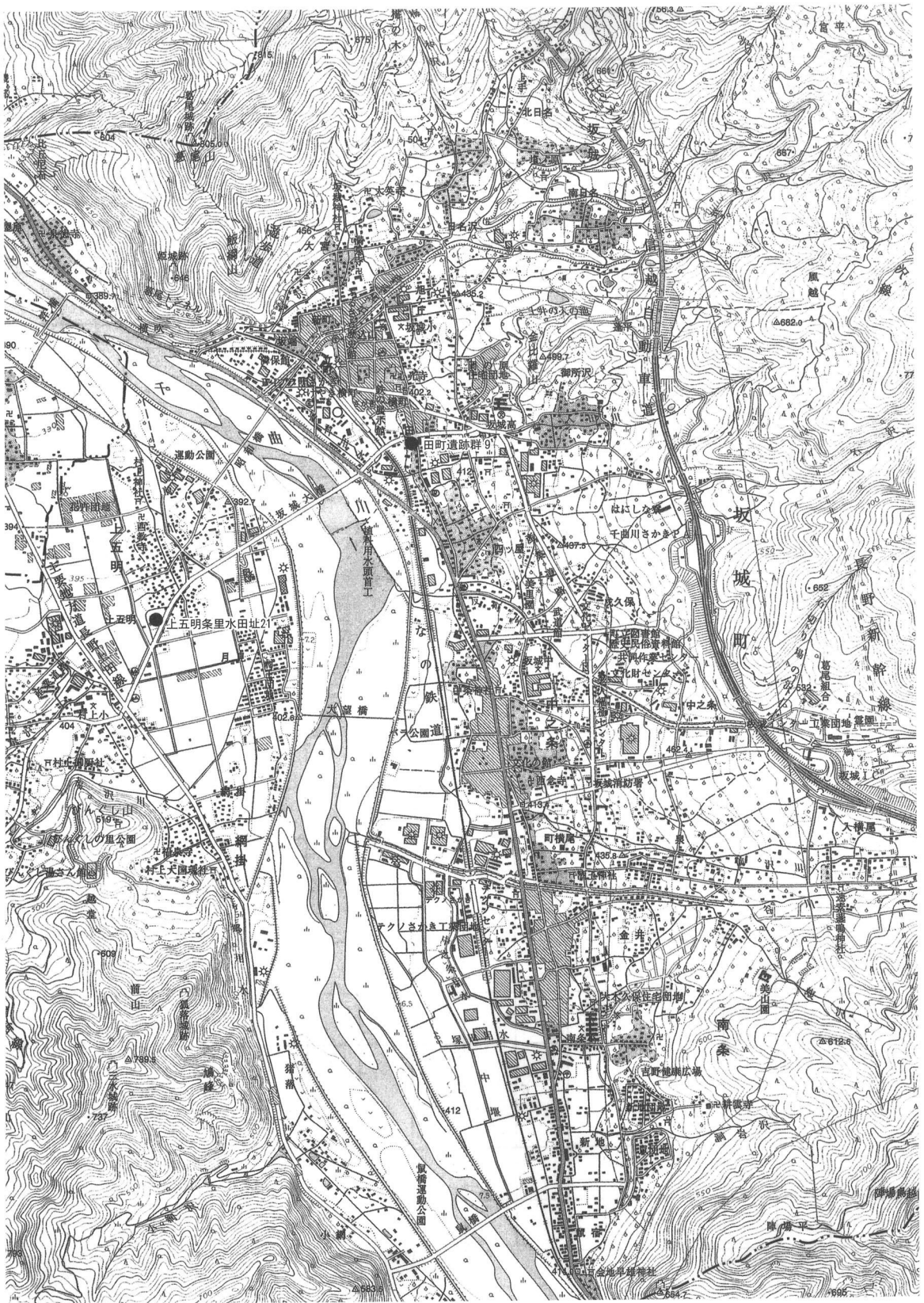
江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1779）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

#### 参考文献（五十音順・敬称略）

- 坂城町教育委員会 1978『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告』 1979『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告』 1993『宮上遺跡Ⅱ』 1995『東裏遺跡』 1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺裏遺跡・東町遺跡』 1996『寺浦遺跡Ⅱ』 2000『開畝遺跡Ⅲ』 2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 2002『保地遺跡Ⅱ』
- 関 孝一 1966「長野県埴科郡保地遺跡発掘調査概報」『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森嶋 稔ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編（一）
- 柳沢 亮 1998「第5節 開畝遺跡」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』（財）長野県埋蔵文化財センター
- 若林 卓 1999「第9章 東平古墳群」「第11章 観音平経塚」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』（財）長野県埋蔵文化財センター



試掘調査位置図 (1 : 25,000)



坂城町遺跡分布図



図面番号	遺跡名	種別	時代
1	南条遺跡群	集落址	弥生～平安
-1	南条遺跡群 東裏遺跡	集落址	弥生～平安
-2	南条遺跡群 御殿裏遺跡(鼠宿)	集落址	弥生～平安
-3	南条遺跡群 百々目利遺跡	集落址	弥生～平安
-4	南条遺跡群 中町遺跡(新地)	集落址	弥生～平安
-5	南条遺跡群 田町遺跡	集落址	弥生～平安
-6	南条遺跡群 廻り目遺跡	集落址	弥生～平安
-7	南条遺跡群 塚田遺跡(田端)	集落址	弥生～平安
-8	南条遺跡群 青木下遺跡	水田址、祭祀跡	弥生～平安
2	金井西遺跡群	集落址	縄文～平安
-1	金井西遺跡群 金井遺跡	集落址	縄文～平安
-2	金井西遺跡群 社宮神遺跡(金井西)	集落址	縄文～平安
-3	金井西遺跡群 並木下遺跡	集落址	縄文～平安
3	金井東遺跡群	集落址	縄文～平安
-1	金井東遺跡群 保地遺跡	集落址	縄文～平安
-2	金井東遺跡群 山金井遺跡	集落址	縄文～平安
-3	金井東遺跡群 大木久保遺跡(南条小学校敷地)	集落址	縄文～平安
-4	金井東遺跡群 酒玉遺跡	集落址	縄文～平安
4	栗ヶ谷古墳	古墳	古墳(後期)
5	社宮神経塚	経塚	中世
6	町横尾遺跡	散布地	縄文～平安
7	北畑古墳	古墳	古墳(後期)
8	中之条遺跡群	集落址	縄文～平安
-1	中之条遺跡群 寺浦遺跡	集落址	縄文～平安
-2	中之条遺跡群 上町遺跡	集落址	弥生～平安
-3	中之条遺跡群 東町遺跡	集落址	弥生～平安
-4	中之条遺跡群 北浦遺跡	集落址	縄文～平安
-5	中之条遺跡群 宮上遺跡	集落址	縄文～平安
-6	中之条遺跡群 北川原遺跡	集落址	縄文～平安
9	南条塚古墳(塚穴古墳)	古墳	古墳(後期)
10	谷川古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	谷川古墳群 入横尾支群 向田古墳	古墳	古墳(後期)
-2	谷川古墳群 入横尾支群 刈塚古墳	古墳	古墳(後期)
11	入横尾遺跡	散布地	平安
12	谷川古墳群 上原支群	古墳	古墳(後期)
13	前原墳墓群	墳墓	中世～近世
14	御堂川古墳群 山口支群	古墳	古墳(後期)
15	山崎遺跡	散布地	縄文
16	御堂川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)
17	御堂川古墳群 前山支群	古墳	古墳(後期)
-1	御堂川古墳群 前山1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	御堂川古墳群 前山2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	御堂川古墳群 前山3号墳	古墳	古墳(後期)
-4	御堂川古墳群 前山4号墳	古墳	古墳(後期)
-5	御堂川古墳群 前山5号墳	古墳	古墳(後期)
-6	御堂川古墳群 前山6号墳	古墳	古墳(後期)
-7	御堂川古墳群 前山7号墳	古墳	古墳(後期)
-8	御堂川古墳群 前山8号墳	古墳	古墳(後期)
-9	御堂川古墳群 前山9号墳	古墳	古墳(後期)
-10	御堂川古墳群 前山10号墳	古墳	古墳(後期)
-11	御堂川古墳群 前山11号墳	古墳	古墳(後期)
-12	御堂川古墳群 前山12号墳	古墳	古墳(後期)
-13	御堂川古墳群 前山13号墳	古墳	古墳(後期)
-14	御堂川古墳群 前山14号墳	古墳	古墳(後期)
18	御堂川古墳群 東平支群 二塚古墳	古墳	古墳(後期)
19	御堂川古墳群 山田支群	古墳	古墳(後期)
20	豊鏡堂遺跡(山崎北遺跡)	集落址	縄文～弥生
21	開成遺跡	集落	弥生～平安
22	人塚古墳	古墳	古墳(後期)
23	四ツ屋遺跡群	集落址	縄文～平安
24	成久保遺跡	集落址	古墳～平安
25	入田遺跡	散布地	奈良～平安
26	塚内古墳(御所沢古墳)	古墳	古墳(後期)
27	金比羅山遺跡	散布地	縄文～平安
28	蓬平経塚	経塚	中世
29	岡の原遺跡	集落址	平安
30	込山遺跡群	集落址	縄文～平安
-1	込山遺跡群 込山A遺跡(水上)	集落址	縄文～平安
-2	込山遺跡群 込山B遺跡(社宮神)	集落址	縄文～平安
-3	込山遺跡群 込山C遺跡(込山)	集落址	縄文～平安
-4	込山遺跡群 込山D遺跡(横町)	集落址	縄文～平安
-5	込山遺跡群 込山E遺跡(立町)	集落址	縄文～平安
31	日名沢遺跡群	集落址	弥生～平安
-1	日名沢遺跡群 日名沢遺跡	集落址	弥生～平安
-2	日名沢遺跡群 丸山遺跡	集落址	弥生～平安
32	土井ノ入遺跡	集落址	奈良～平安
33	平林遺跡	散布地	縄文

図面番号	遺跡名	種別	時代
34	塚外窯跡	窯跡	平安
35	平沢遺跡	散布地	縄文
36	和平遺跡群	集落址、散布地	縄文～平安
-1	和平遺跡群 和平A遺跡	集落址	縄文～平安
-2	和平遺跡群 和平B遺跡	散布地	弥生
-3	和平遺跡群 和平C遺跡	散布地	平安
37	金比羅山古墳	古墳	古墳(後期)
38	村上氏館跡	城館跡	中世
39	馬の背遺跡	散布地	縄文
40	北日名経塚	経塚	中世
41	北日名塚穴古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	北日名塚穴1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	北日名塚穴2号墳	古墳	古墳(後期)
42	梅ノ木遺跡	散布地	縄文
43	栗田窯跡	窯跡	奈良
44	葛尾城跡	城館跡	中世
45	出浦沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	出浦沢古墳群 出浦支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	出浦沢古墳群 出浦支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	出浦沢古墳群 出浦支群3号墳	古墳	古墳(後期)
-4	出浦沢古墳群 出浦支群4号墳	古墳	古墳(後期)
-5	出浦沢古墳群 出浦支群5号墳	古墳	古墳(後期)
-6	出浦沢古墳群 島支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-7	出浦沢古墳群 島支群2号墳	古墳	古墳(後期)
46	島遺跡	集落址	弥生～平安
47	福沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	福沢古墳群 小野沢支群1号墳(御厨社古墳)	古墳	古墳(後期)
-2	福沢古墳群 小野沢支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	福沢古墳群 小野沢支群3号墳(ヤックラ古墳)	古墳	古墳(後期)
-4	福沢古墳群 小野沢支群4号墳	古墳	古墳(後期)
48	小野沢遺跡	集落址	弥生～平安
49	福沢古墳群 越堂支群	古墳	古墳(後期)
50	福泉寺裏古墳	古墳	古墳(後期)
51	狐落城跡	城館跡	中世
52	三水城跡	城館跡	中世
53	開割製鉄遺跡	製鉄跡	中世
54	込山廃寺跡	寺院跡	平安
55	観音平経塚	経塚	中世
56	栗田小鍛冶跡	製鉄跡	中世
57	塩の原遺跡	集落址	奈良～平安
58	南日名遺跡	集落址	弥生～平安
59	葛尾城根小屋跡	城館跡	中世
60	姫城跡	城館跡	中世
61	坂木代官所跡	屋敷跡	近世
62	田町遺跡群	散布地	古墳～平安
63	御所沢墳墓群	墳墓	中世
64	雷平窯跡	窯跡	平安
65	中之条石切場跡	採掘跡	近世
66	砥沢古墳	古墳	古墳(後期)
67	中之条代官所跡	屋敷跡	近世
68	吼咄窯跡	窯跡	平安
69	観音坂城跡	城館跡	中世
70	南鯉の川遺跡(吉祥寺跡)	散布地寺院跡	奈良～中世
71	口留番所跡	屋敷跡	近世
72	和合城跡	城館跡	中世
73	高ツヤ城跡	城館跡	中世
74	虚空蔵山城跡	城館跡	中世
75	地獄沢黄鉄鉱採掘跡	採掘跡	近世
76	籠岩遺跡	散布地	平安
77	出浦城跡	城館跡	中世
78	上五明条里水田址	水田址	平安～近世
79	出浦遺跡	集落址	縄文～平安
80	村上氏館跡	城館跡	中世
81	福沢氏居館跡	城館跡	中世
82	小野沢窯跡	窯跡	奈良～平安
83	福沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	福沢古墳群 五狭支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	福沢古墳群 五狭支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	福沢古墳群 五狭支群3号墳	古墳	古墳(後期)
84	荒宿遺跡	集落址	縄文～平安
85	網掛原遺跡	集落址	縄文～平安
86	祭祀跡	祭祀跡	平安
87	島黄銅鉱採掘跡	採掘跡	近代
88	島マンガン鉱採掘跡	採掘跡	近代
89	上平黄銅鉱採掘跡	採掘跡	近代
90	横吹北国街道跡	街道跡	近世

## 第Ⅱ章 試掘調査の結果

### 1 上五明 条里水田址21

かみ ごみようじょうり すいでん し

所在地 坂城町大字上五明309-4ほか  
事業主体 長野県千曲建設事務所  
事業名 道路改良事業  
調査期間 平成22年10月19・20日  
面積 550㎡ (59㎡)  
担当者 時信 武史



試掘調査位置図 (1 : 2500)

#### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は、坂城町の千曲川左岸の網掛、上五明、上平に所在する千曲川沖積地に所在する遺跡で、「坂城町遺跡分布図」によると平安時代～中世にかけての条里水田址に位置づけられている。しかし、近年の試掘調査及び発掘調査によって、上五明地区、上平地区には古代の集落址も検出され、生産遺跡といった性格以外に集落址も存在している事が判明している。

今回、本遺跡内において道路改良事業が計画され、遺跡の有無を確認するため試掘調査を実施することとなった。



1号トレンチ掘削状況 (南西より)

#### 調査の成果

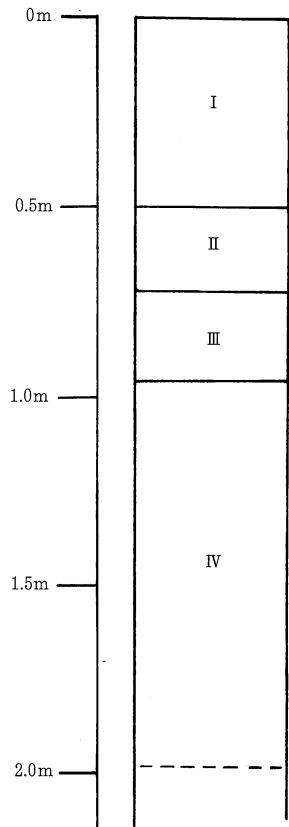
今回の調査地点は、これまで行ってきた上五明条里水田址の試掘調査では千曲川に近い場所であった。

トレンチを設定して掘削を行ったが、耕作土層直下に若干のシルト層を挟みながらも、地表下約1.2mで千曲川の氾濫による堆積と思しき砂礫層を確認した。土層断面の観察や、遺物が出土しなかったことから、当該地には遺構は存在していないものと判断した。



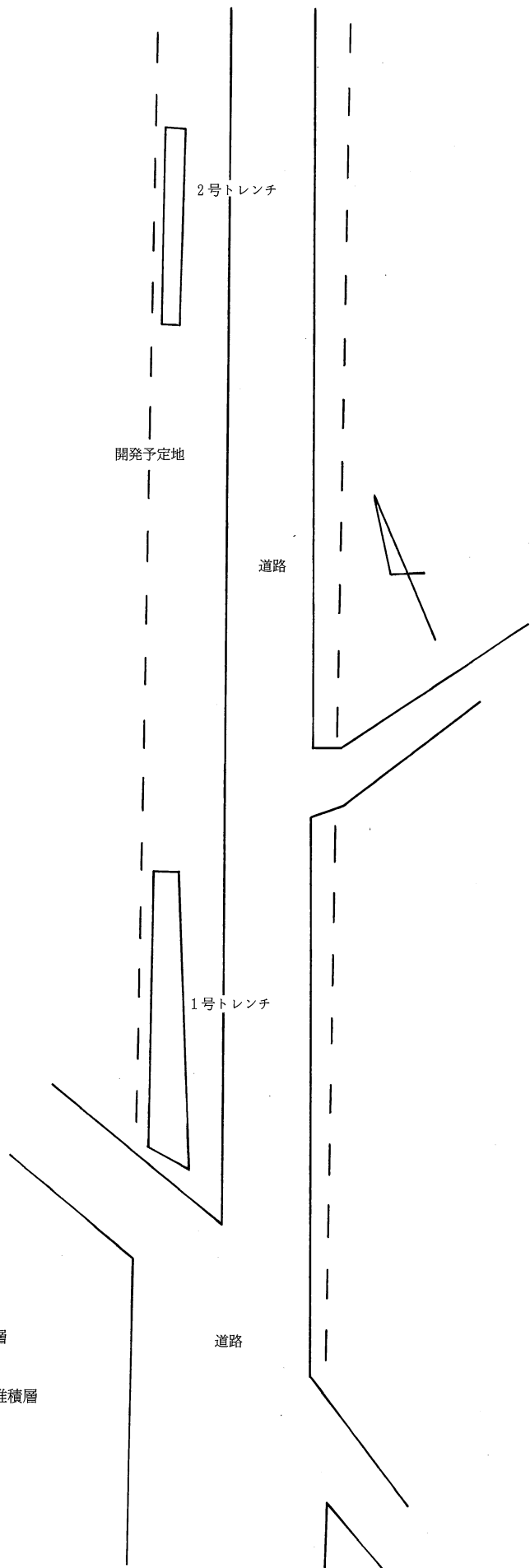
1号トレンチ検出状況 (北東より)





基本層序模式図

- I層 におい黄褐色土 (10YR4/3) 粘質土、水田耕作土層
- II層 明黄褐色土 (10YR6/6) 粘質土、水田床土層
- III層 褐色土 (10YR4/4) 粘質土、旧水田耕作層
- IV層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 砂利層、河川による自然堆積層



試掘トレンチ設定図 (1 : 500)

## 2 田町遺跡群 9

所在地 坂城町大字坂城6565-2ほか  
事業主体 長野県千曲建設事務所  
事業名 道路改良  
調査期間 平成22年1月13・14日  
面積 2,300㎡ (17㎡)  
担当者 時信 武史

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

田町遺跡群は坂城町坂城に所在し、日名沢川によって形成された扇状地上に分布している。「坂城町遺跡分布図」によると古墳～平安時代の散布地とされ、過去に数回試掘調査が実施されている。平成6・7・10・12年度は宅地造成事業、平成18年度は集合住宅建設によって試掘調査を行った。平成6・18年度地点から遺物や遺構が確認されたが、依然として遺跡の詳細がつかめていない。

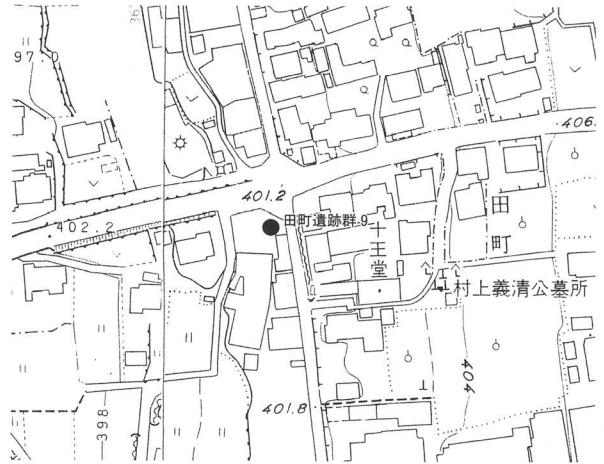
今回、長野県千曲建設事務所による県道拡幅事業が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。

### 調査の成果

今回の計画地は、西面する緩斜面の先端付近に位置している。南北方向に試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。

トレンチを地表面から約1m掘り下げたが、遺構・遺物の検出にはいたらなかった。

なお、旧北国街道（現町道）に沿う形で1条の木樋が検出されたが、堆積土中からの出土物から近～現代以降の所産であると判断された。



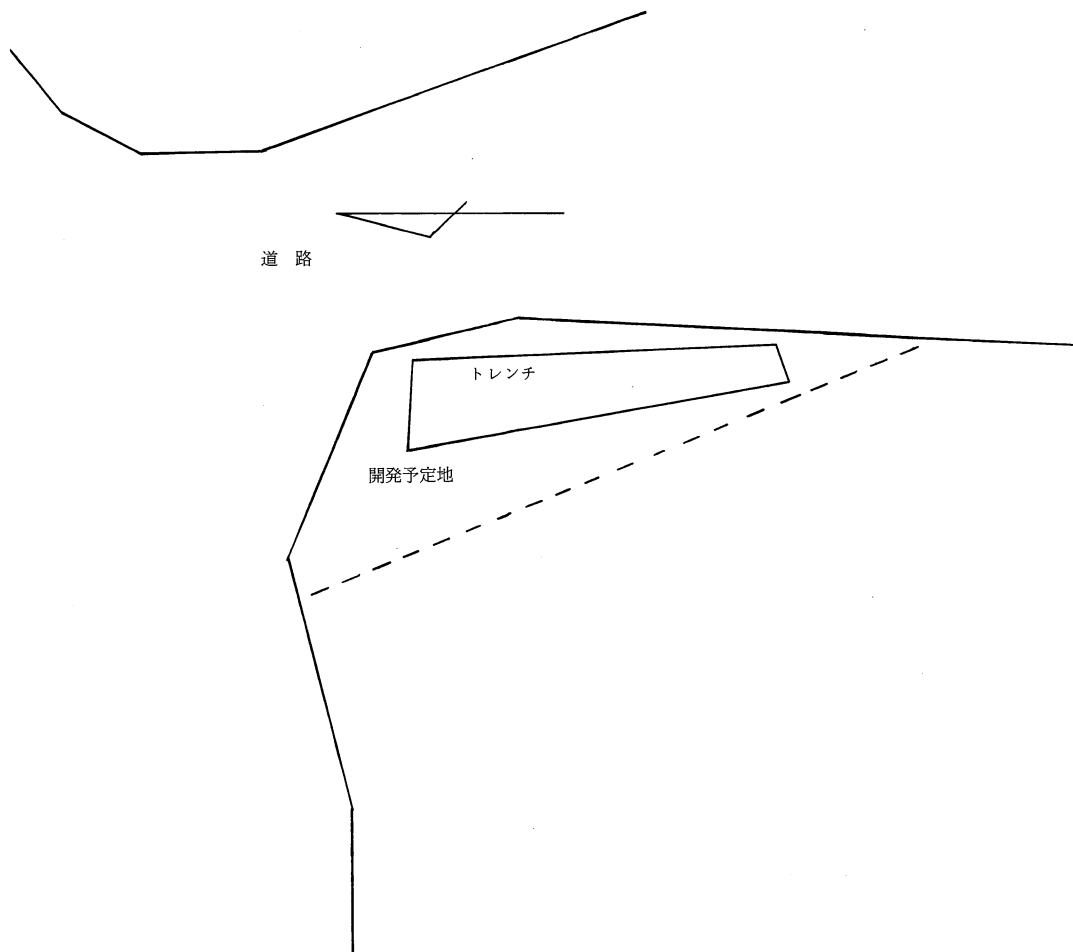
試掘調査位置図（1：2500）



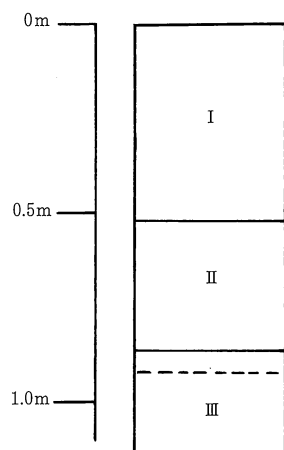
トレンチ掘削状況（南より）



トレンチ検出状況（南より）



試掘トレンチ設定図 (1 : 200)



- I層 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒・炭化物・瓦礫を含む。盛土層
- II層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 礫を含む粘質土、盛土層
- III層 暗褐色土 (10YR3/4) 礫を含む粘質土、地山層

基本層序模式図

### 第三章 立会い調査の結果

No.	遺跡名	開発主体者	所在地	開発事業名	開発面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間
1	田町遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	配水管埋設	37	H22年9月7日～ H22年9月1日
2	日名沢遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	消火栓移設	2	H22年6月16日～ H22年7月2日
3	戌久保遺跡	個人	坂城	個人住宅建設	170	H22年9月5日～ H22年11月30日
4	島遺跡	ソフトバンクモバイル株式会社	上平	携帯電話鉄塔建設	1	H22年9月20日～ H22年10月31日
5	御堂川古墳群	ソフトバンクモバイル株式会社	中之条	携帯電話鉄塔建設	1	H22年9月20日～ H22年10月31日
6	荒宿遺跡	ソフトバンクモバイル株式会社	網掛	携帯電話鉄塔建設	1	H22年9月20日～ H22年10月31日
7	上五明条里水田址	上田水道管理事務所	網掛	配水管埋設	380	H22年10月13日～ H23年3月25日
8	網掛原遺跡	上田水道管理事務所	網掛	配水管埋設	380	H22年10月13日～ H23年3月25日
9	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	配水管埋設	25	H22年10月25日～ H22年12月3日
10	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	配水管埋設	86	H22年10月25日～ H23年3月4日
11	込山遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	配水管埋設	21	H22年10月21日～ H22年10月29日
12	上五明条里水田址	坂城町建設課	網掛	下水管埋設	1200	H22年11月1日～ H23年3月31日
13	上町遺跡	坂城町建設課	中之条	下水管埋設	1600	H22年11月1日～ H23年3月31日
14	金井西遺跡群	坂城町建設課	南条	下水管埋設	1400	H22年11月1日～ H23年3月31日
15	宮上遺跡	㈱桜井製作所	中之条	工場建設	24	H22年11月1日～ H22年12月25日
16	日名沢遺跡群	個人	坂城	個人住宅建設	216	H22年12月6日～ H23年3月15日
17	込山C遺跡	ソフトバンクモバイル株式会社	坂城	携帯電話鉄塔建設	1	H22年11月20日～ H22年12月25日
18	谷川古墳群	ソフトバンクモバイル株式会社	南条	携帯電話鉄塔建設	1	H22年11月20日～ H22年12月25日
19	込山B遺跡	上田水道管理事務所	坂城	消火栓設置	4	H22年12月6日～ H23年2月10日
20	上五明条里水田址	上田水道管理事務所	上五明	配水管埋設	530	H23年3月28日～ H23年8月26日



立会い調査位置図 (1 : 25,000)

報告書抄録

ふりがな	さかきちょうないいせきはくつちょうさほうこくしょ
書名	坂城町内遺跡発掘調査報告書 2010
副書名	平成22年度試掘・立会い調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第38集
編著者名	助川 朋廣・時信 武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2011年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみ ごみょうじょうり すいでん し 上五明 条里水田址21	さか き まちおおあざかみ ごみょう 坂城町大字上五明	20521		36° 27' 08"	138° 10' 15"	2010年10月19日 2010年10月20日	59	道路改良
た まち い せきぐん 田町遺跡群 9	さか き まちおおあざさか き 坂城町大字坂城	20521		36° 27' 38"	138° 11' 05"	2011年1月13日 2011年1月14日	17	道路改良

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上五明条里水田址21	水田址	平安～近世	なし	なし	
田町遺跡群 9	散布地	古墳～平安	なし	なし	



## 坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開畝製鉄遺跡－第1次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡－第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』（概報）	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戌久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開畝遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊饒堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集	『込山遺跡群 込山C遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2006
第28集	『込山遺跡群 込山D遺跡Ⅰ』	2007
第29集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集	『南条遺跡群 青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2007
第31集	『開畝遺跡Ⅳ』	2008
第32集	『町横尾遺跡Ⅱ』	2008
第33集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2007』	2008
第34集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅳ・Ⅴ』	2009
第35集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2008』	2009
第36集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅳ』	2010
第37集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2009』	2010
第38集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2010』（本書）	2011

---

### 坂城町埋蔵文化財調査報告書第38集

#### 坂城町内遺跡発掘調査報告書2010

発行日 2011年3月31日  
編集者 坂城町教育委員会  
〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1  
TEL 0268 (82) 1109  
印刷者 信毎書籍印刷株式会社  
〒381-0037 長野県長野市西和田1丁目30番3号  
TEL 026 (243) 2105

---